

## 再評価結果（平成 28 年度事業継続箇所）

担当課： 環境安全課

担当課長名： 森山 誠二

事業名	SIC アクセス 市道日尾野引坂線 <small>ひびのひきさか</small>	事業区分	地方道	事業主体	伊予市
起終点	自：愛媛県伊予市双海町上灘 至：愛媛県伊予市双海町上灘 <small>いよしまつみちようかみなだ</small>			延長	市道部：0.92km ランプ：1.28km (市道部0.53km)
事業概要					
<p>伊予市には、四国縦貫自動車道の伊予 IC が設置されているものの、隣接する内子五十崎 IC までの距離が四国内最長である約 24km と長く、これらの IC 間に所在する伊予市中山町及び双海町の全域では、高速道路の利便性が著しく低い状況にあることから、(仮称)中山スマート IC の整備が進められている。</p> <p>スマート IC へのアクセス道路を整備することにより、スマート IC 整備がもたらす効果である災害時の多重性の確保や救急医療機能の充実・向上、地域の振興及び活性化等が図られ、伊予市が目指している持続可能なまちづくりの実現が可能となる。</p>					
H26 年度事業化		H-年度都市計画決定		H28 年度用地着手	
H28 年度工事着手					
全体事業費	約 20 億円	事業進捗率	約 11%	供用済延長	0km
計画交通量	517 台/日				
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.1  (残事業) 1.2	総費用 (残事業)/(事業全体) 22/24 億円 事業費：16/18 億円 維持管理費：5.9/5.9 億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 25/25 億円 走行時間短縮便益：21/21 億円 走行経費減少便益：2.9/2.9 億円 交通事故減少便益：1.8/1.8 億円	基準年	平成 28 年
感度分析の結果					
(事業全体) 交通量：B/C=0.9~1.2(交通量 ±10%)		(残事業) 交通量：B/C=1.0~1.3(交通量 ±10%)			
事業費：B/C=1.0~1.1(事業費 ±10%)		事業費：B/C=1.1~1.2(事業費 ±10%)			
事業期間：B/C=1.0~1.1(事業期間±20%)		事業期間：B/C=1.1~1.2(事業期間±20%)			
事業の効果等					
①災害時の多重性の確保 国道 56 号が土砂災害等で通行不能となった場合でも、高速道路による伊予・松山方面からの救助・救護活動及び救援物資の輸送ルートが確保される。					
②救急医療機能の充実・向上 救急医療機関への搬送時間の短縮による救命率の向上及び高速道路の利用による患者への負担軽減などを図る。					
③地域の振興及び活性化 スマート IC へのアクセス性を向上させ、近隣の「道の駅」や他の観光施設との連携を強化することで、観光客の増加と定着化の促進を図る。					
④交通アクセス向上 通勤・通院・買物といった日常生活圏を伊予市中心部・松前町・松山市方面に持つ中山地域にとって、高速道路利用により利便性が向上する。					
⑤産業の活性化 IC が近接することで、地場産業及び既存企業の振興・発展につながる。					
関係する地方公共団体等の意見					
連結道路管理者、関係機関、学識経験者、市民等で構成される「(仮称)中山スマート IC 地区協議会」等より早期整備の要望を受けている。					
事業評価監視委員会の意見					
事業継続を妥当と認める。					

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

H28年6月に国交省より松山IC～大洲IC(約42km)が付加車線検証路線として選定され、H28年8月に県渋滞対策協にて本SIC区間を含む約6kmが試行設置箇所決定された。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成26年度事業化、事業進捗率11%(うち用地進捗率32%)  
 今後は道路改良工事を推進し、平成31年度末供用を目指す。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

平成28年12月時点では、事業化時における完成予定年度からの変更はない。引き続きH31年度末供用に向けて事業を進めていく。

施設の構造や工法の変更等

線形の見直しにより、長大切土の回避や切土法面対策工の変更、工区内での土量調整を行っており、引き続きコスト縮減に取り組んでいく。

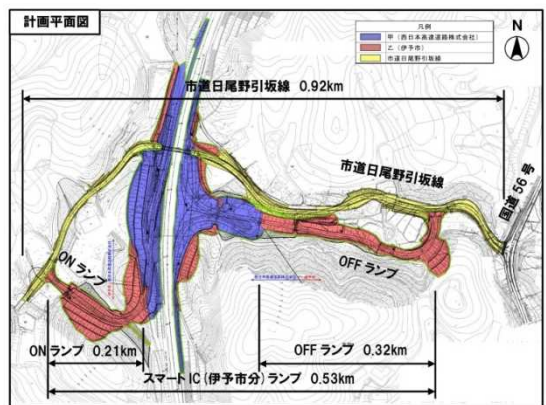
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

事業の必要性、重要性は変化がなく、費用対効果の投資効果も確保されているため。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。  
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。